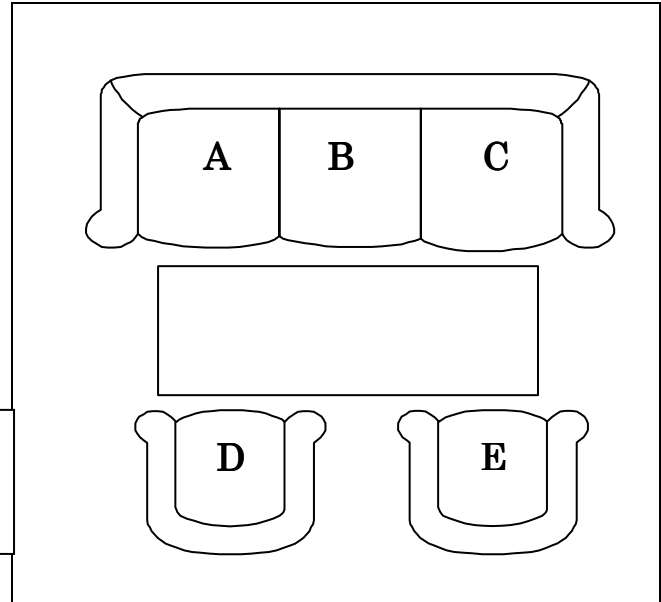


マナー・プロトコール検定 準2級 問題例

【問題1】ビジネスマナーとして、不適切なものを2つ選びなさい。

- 1) 二人の来客を B、C に自社側を E に案内した。
- 2) 二人の来客を D、E に自社側を B に案内した。
- 3) 来客を C に自社側を D、E に案内した。
- 4) 来客を C に自社側を E に案内した。
- 5) 来客を E に自社側を C に案内した。

<応接室入り口>⇒



【問題2】プロトコールについて、不適切なものを2つ選びなさい。

- 1) プロトコールの語源はギリシャ語であるが、文字によって記された外交儀礼・国際儀礼の本がイタリアに残っており、プロトコール発祥の地はイタリアであるといわれている。
- 2) 公式行事や晩餐会などでは、出席者は同列に扱うことが原則であり、序列に配する必要はない。
- 3) プロトコールに於ける「答礼・相互主義」とは、相手の儀礼に対しては相応の儀礼を返すことである。
- 4) 左上位が国際儀礼のルールであり、席次については、主催者の左側が上席となる。
- 5) レディファーストは中世ヨーロッパの騎士道に由来するが、現在では国際的なマナーとされている。

【問題3】贈答のマナーについて、不適切なものを2つ選びなさい。

- 1) お歳暮を贈る時期は、12月上旬から20日頃までが一般的である。この時期に贈ることが出来なかった場合は、新年になってから表書きを「御年賀」と書いて贈るとよい。
- 2) 贈答品の包み方は、慶事と弔事では異なる。現金を包む場合も、慶事のときは紅白二枚で包み、弔事の場合は白紙一枚で包む。
- 3) 「のし」は「熨斗あわび」の略で、丁重な贈り物をする際に進物の印として使用されてきた。

現在では簡略化され包み紙などに既に印刷されていたりするが、慶弔問わず「のし」はつけるのが決まりである。

- 4) 外国では、誕生日やクリスマス、結婚、卒業などの特別な日に贈り物をするのが一般的で日本のように、お中元やお歳暮といった季節の贈答習慣は特に無い。
- 5) 弔事の際の表書きは、仏教では「御仏前」、神道では「御花料」、キリスト教では「御玉串料」などと表書きをする。

【問題4】日本料理のテーブルマナーについて、不適切なものを2つ選びなさい。

- 1) お造りは美しく盛り付けられているので、崩さないように箸をつけ、味の淡白なものから濃いものへと食べ進めるのが一般的な作法である。
- 2) 焼き合わせ(煮物)は、懐紙で受けて食べるか、器を持って食べる。残った汁は、器を両手で持ち上げて飲んでもかまわない。
- 3) 会席料理では、焼き物といえば魚が出るのが一般的であるが、付け合せの「茗荷子」や「はじかみ」は飾りなので食べてはいけない。
- 4) 留め椀とは、この椀にて酒宴は終了という意味を持つ。お椀は「澄まし汁」になる。
- 5) 水菓子とは果物のことで、フランス料理のデザートにあたる。水菓子をもって、会席料理のコースは全て終了する。

【問題5】フランス料理のテーブルマナーについて、不適切なものを2つ選びなさい。

- 1) 食事中の手の位置は、テーブルに両手をのせるのがフレンチスタイルである。これは相手に「武器を持っていない」というアピールが、マナーになったものである。
- 2) 女性の小型ハンドバッグは、食事中はテーブルの上に置いてよい。
- 3) ナプキンは扱い方一つで様々なサインになる。ナプキンを使わず自分のハンカチやティッシュペーパーを使うことは、店に対し失礼にあたる。
- 4) メインディッシュの次にサラダを食べる際、食べやすいように二つの皿を自分で入れ替えるのはマナー違反ではない。
- 5) 食事中、料理の皿を友人と取り替えるなどということは、タブーである。

<解答> 問題1. (2, 5) 問題2. (2, 4) 問題3. (3, 5) 問題4. (3, 4)
問題5. (2, 4)